

2016年6月9日

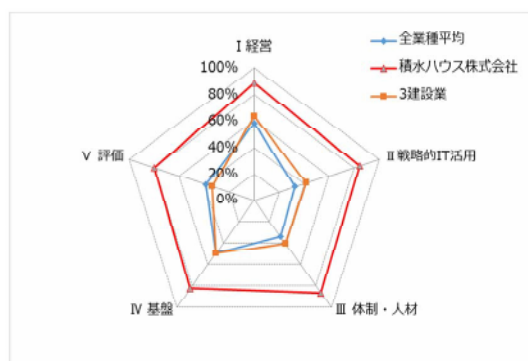
各位

積水ハウス株式会社

経産省・東証2016年度の「攻めのIT経営銘柄」2年連続の選定 今回選定の全26社の中で建設業界より唯一

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部 俊則)は6月9日(木)、経済産業省と東京証券取引所が共同で創設する「攻めのIT経営銘柄」に選定されました。これは、優れた「攻めのIT経営」を積極的に進め、中長期的な視点から企業価値の向上を重視する投資家にとって魅力のある企業を選定するもので、当社は今回選定された26銘柄のうち、建設業界で唯一の2年連続の選定銘柄となります。評価された主なポイントは以下の通りです。

- 提案・生産・施工等における「邸情報の一元化」により80億円のコストダウンを実現
- スマートデバイスの導入によりワークスタイルの変革やワークライフバランスを実現
- 企画部門での情報活用を始め「今までなかった情報を活用する」意識が社内に定着



政府は、「日本再興戦略」などにおいて、企業のIT投資を新事業分野への投資や既存ビジネスを強化する「攻め」へと転換させることが施策として必要であるとしています。この取組みを促進する一環として、「攻めのIT経営銘柄」を創設し、積極的に取り組む企業を投資家等に紹介するとともに、経営者への意識改革を促すことを目的としています。

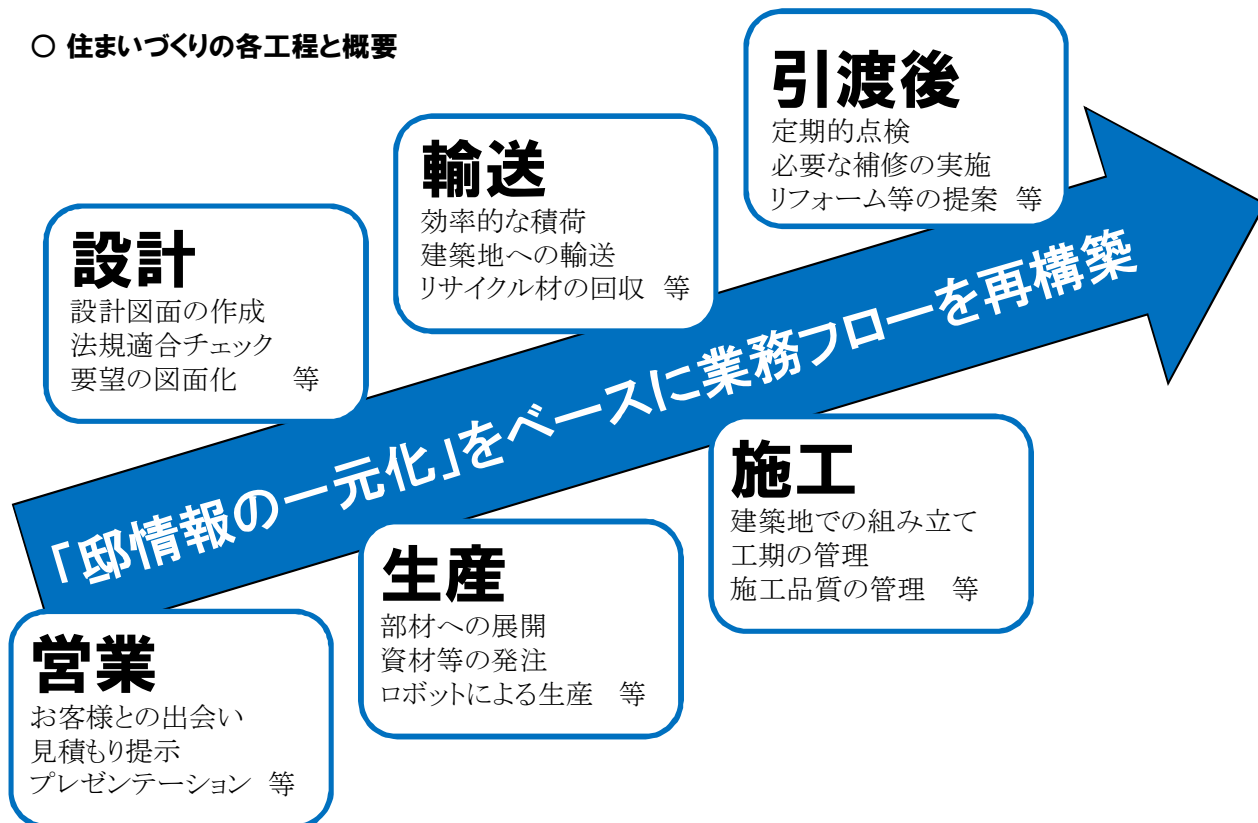
当社では、年間販売戸数約4.8万戸の合理的な提案・施工や、約77万棟の戸建オーナー様のアフターサービスにおける、「邸情報の一元化」によるビッグデータ活用をベースとしたシステムを構築してまいりました。同システムを活用した結果、工期短縮、大幅な業務コスト削減等を実現しました。また、主たる業務の処理をiPhone, iPadなどのスマートデバイスで行えるようにすることで、多岐にわたる職種での生産性の向上や、出先で完結する業務範囲の拡大によるワークライフバランスの実現など働き方の改革にもつながっています。さらに、グループで管理している賃貸物件の駐車場の空き情報を共有し、工事車両の駐車などに活用するなど、「今までなかった情報を活用する」などの意識が定着しつつあります。

今後は、IoT, AI など新技術の積極的な導入により、経営効率のさらなる改善、お客様との出会いから引き渡し後にいたる全過程での付加価値向上による顧客満足度の向上、勤務時間の短縮による従業員満足度の向上など、より社会に必要とされる企業をめざして取り組んでまいります。

■ 「邸情報の一元化」の取り組み概要

邸別自由設計「多品種・少量生産」である住宅を、高品質かつ合理的に大量に供給するため、従来のBIM (Building Information Modeling; ビム) の概念を大幅に拡大し住宅用に特化した仕様にカスタマイズしました。本システムにより、「設計情報」「部材情報」にとどまらない、「お客様の情報」「メンテナンス等履歴情報」「その他の基本情報」を統合する「邸情報の一元化」を実現しました。各工程での業務の最適化等により、「邸情報の一元化」の取り組み前と比較して、80億円のコストダウンを実現しております。

○ 住まいづくりの各工程と概要



○ 各工程におけるIT活用の例



営業・設計でのIT活用

設計した図面から分かりやすい3Dイメージの生成、見積もりの迅速かつ正確な算出などお客様メリットを実現



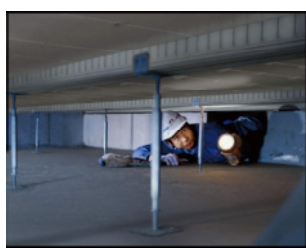
施工現場でのIT活用

工事監理者、施工者等に配布したスマートデバイスによる、施工マニュアルの周知、正確な施工や工期管理の実現



生産・輸送でのIT活用

図面データ等から、部材への展開、ロボットによる生産、効率的輸送ルート算出など大幅な省力化と、長期事前需要予測に基づく資材購入コストの低減



引渡後のIT活用

メンテナンスでの点検、リフォーム、災害時の対応などでの邸情報の活用と、修理履歴を正確に保存することによるストック価値の向上

■ ご参考

経済産業省プレスリリース「攻めのIT経営銘柄2016」選定企業の発表

<http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160609002/20160609002.html>

日経CNBC「ものづくりの挑人たち」で放映された【建設業におけるIT活用最前線】映像

<http://youtu.be/i8MpmwAG3qI>